

//REPORT//

ユネスコスクールオンライン意見交換会

10/13 開催 第3回「災害時におけるユネスコスクールの繋がり」



2020年度よりユネスコスクール事務局はユネスコスクールオンライン意見交換会を1か月～2か月に1回のペースで実施することとなりました。今回は国際防災デーでもある10/13に「災害時におけるユネスコスクールの繋がり」と題して、15名の参加者とともに対話の場をもちました。

■プログラム

開催日時:2020年10月13日(火) 16:00～17:00

時間	内容
16:00	オープニング 趣旨説明・自己紹介
16:05	事例紹介 大牟田市立みなと小学校 下地 徹 氏
16:20	コメント 奈良教育大学 准教授 中澤 静男 氏
16:25	グループディスカッション 事例紹介を聞き感じたこと、各校の取り組みをお互いに共有します。
16:45	振り返り グループ毎に、ディスカッションで話したことを発表します。(良かった点、学んだこと、今後活かしたいこと、改善点、メリット・デメリット等)
17:00	クロージングと事務連絡

■九州豪雨時の大牟田市立みなと小学校の経験

福岡県大牟田市立みなと小学校の下地徹教諭より「豪雨被災におけるユネスコスクールのつながりについて」をテーマに話題提供いただきました。以下、下地先生のご発表の概要です。

1. 令和2年7月豪雨による被害の状況について

2020年7月6日当日の様子を振り返ります。朝から雨が降り続いていましたが、14時からこれまでに経験したことのない大雨が降りました。そして、19時あたりから浸水し始め、水かさが増してきました。すでに、17時には電話がつながらなくなっていました。警報を受けて、浸水前に迎えにきた保護者への対応、子どもたちの避難誘導、外部への連絡、避難者への対応などめまぐるしく事態が動い

ていきました。最終的に、教職員全員と子どもたち 22 名、地域の方 80 名程度が学校の中で一夜を過ごすことになりました。職員は子どもたちに声をかけて励ましたり、夜通し消防や警察に救助されてくる地域の方の対応に追われたりしていました。翌日、職員室で仮眠をとりましたが、目を覚まし、床に足をついたとき、足元には水が張っていて絶望的な気持ちになったのを覚えています。8 時には自衛隊に救助され、子どもたちや地域の方、職員全員が学校から出ることができました。お屋前に帰宅できたうれしさと、その一方で先の見えない復旧活動に気が重くなりました。7 月 8 日、学校の中は棚が倒れ、教室の床は浮き上がり、駐車場の車は全て廃車となり、ゴミが散乱していました。状況確認をしながら、何をどこからおこなうべきなのか沈痛な思いでした。

2. ユネスコスクールのつながりによる支援と学校再開

そのような状況の中、全国のユネスコスクールが私たちに希望と勇気を与えてくれました。まずは、市内より様々な人的な支援を受けました。7 月 8 日の早い段階で、教育委員会をはじめ、市内のユネスコスクールの先生方 50 名、9 日には、退職校長会が来校し片付けをしてくれました。1 日だけではなく、何日もたくさんの方に使えなくなったものの撤去や消毒作業など多くの作業のお手伝いをしてもらったことで、1 週間で学校を再開することができました。皆さんが日々の業務を置いて、私たちのために集まってくださっていると思うと、涙が出る思いでした。また、物的な支援もいただきました。被災し使えなくなってしまった備品をいただいたり、義援金という形で全国から支援をいただいたりしました。そして、何よりとても強く励まされたのが心的な支援でした。これまで本校が取り組んできた ESD のつながりで、以前から交流のあった子どもたちから手紙などの励ましをいただきました。こどもたちも教員も大変救われました。いただいたメッセージは今も廊下に掲示していますが、今でも子どもたちが足を止めて読んでいる姿が見られます。

3. 広がるつながり

このようなつながりが、いま広がりを見せています。ASPUnivNet の加盟大学の 1 つである奈良教育大学のユネスコクラブの皆さんがビデオメッセージを送ってくれました。ここから、定期的に交流会をさせてもらえることになりました。遠く離れた奈良県のお兄さんお姉さんと交流できると、子どもたちも楽しみにしています。このように、小学生と大学生といった世代間のつながりの中で、お互いの地域や ESD の取組について交流し合えたらと考えています。

■ 子どもと一緒に考える持続可能性

話題提供を受け、奈良教育大学 中澤静男教授にコメントをいただきました。

- ・ みなと小学校との交流のきっかけですが、私が学生にやりなさいと言ったわけではなく、以前、奈良教育大学が大牟田市で研修会を実施した際に、大牟田市の教育長からユネスコスクール同士のつながりで何かできるか？と提案があり、それが始まりでした。私はこの提案を学生に話し、それを実現したのは学生自身です。素晴らしい行動力だと思います。
- ・ 自然災害が増えていく中で、命を守る活動が大切になってきます。また、このような活動は支援される側、支援する側双方にとってとってもよいことです。
- ・ 今日のキーワードとして、東京大学の及川先生がおっしゃっている自助・公助・共助・N 助が

挙げられると思います。N 助とはネットワークのことです。自発的に学生がビデオレターをつくり発信したことも、この N 助にあたると思います。

- ・ 学生の行動力についてですが、私はいつもすべての物・者、事へのケアが大切だと伝えていきます。Care for Things(CfT)は私が創った言葉ですが、あらゆる人のことを大切にすることが、命を大切にすることにつながるという意味です。この CfT を実行できる人を育てる必要があるだろうと思います。
- ・ 通常であれば他地域からも現地に支援に行くことができましたが、今回はコロナ禍ということで、それができない状況でした。それでも、きちんと大牟田市内の先生が支援に入っていました。コロナ禍においても他地域から物的、心的な支援ができることが分かったと思います。
- ・ そのような中で、みなと小学校も今回支援をきちんと受け止めていただけたという点が重要です。
- ・ また、平常時の「つながり」が緊急時の「つながり」に繋がっていることも分かったと思います。

■ 模索しながら、できることから！

下地先生の話提供と中澤教授からのコメントを受け、参加者同士の対話の場が持たれました。以下、話し合われた主な内容です。

-
- コロナ禍の状況だからこそできることを模索することの重要性を感じた。
 - 災害だけでなく課題でも世界中で N 助を必要としている学校があるのではないか。そのようなテーマで異学校種、国際間の助け合い、学び合いができれば、ユネスコスクールのネットワークが活かされると思った。
 - CfT のお話がありましたが、「Care for Oneself」ができて初めて他者への支援ができると思う。自尊心が高まり自信につながる活動をどのようにこれから進めていくことができるかも今後の課題として挙げられる。
 - みなと小学校の話聞いて、同じく被害を受けた学校が支援にかけつけていることに驚いた。自分たちが同じ状況にあったら、同じことができるかと考えてしまった。
 - 防災という観点から、初動で動けるかが重要で、それは平常時から作られているのだと感じた。いかに何も起きていないときに N 助を意識してもらえるか、つながりを大切にできるかが重要であると感じた。
 - (今回のグループディスカッショングループで)出会った 3 人がつながりをもったらという話にもなった。私たちの学校(玉川大学)にもユネスコクラブがある。学生と交流する機会がないので、奈良教育大学の学生に連絡とってみようか、小学生に何かできないかなどと言った、交流について前向きに考えることができた。
 - (長野、広島での災害の経験から)たとえ同地域で被災した場合でも温度差が出てくると感じたことがある。どのように自分の問題として捉えることできるのか、大きな課題であると感じた。また、同じ学校の中でも、被災状況によって温度差があるということも(グループディスカッションでの意見交換で)知ったので、その点についても考えていきたい。
 - 支援というと、物的・人的支援が頭に浮かび、コロナ禍での支援をどのようにしたらいいのか迷っ

た。また、メッセージ等を贈る際も、相手の負担になってはいけないと躊躇していたが、今回の発表を聞き、心的な支援も躊躇なく実施すべきと勇気が湧いた。

- 平常時、組織間でつながることが難しい場合、例えば、個人間で初めてつながることによって、学校同士のつながりにも発展していくのではないかと考えた。
- ユネスコ委員会で日常的に活動しているが、行動力にいかに関わり付けていくかがこれからの課題である。
- 「気候変動」という観点から、(みなと小学校の)経験を教材化していくことを考えている。
- 災害に限らず、平常時から N 助を形成していくことは、まさにユネスコスクールで実践できることであると感じた。



〔意見交換終了後の集合写真〕

※次回は 2020 年 11 月 24 日(火)16:00～17:00 に「ユネスコスクールの高校生とコロナ禍の学習について語ろう！」をテーマにした対話の場をもちます。ユネスコスクールである名古屋国際中学校・高等学校の生徒さんに発表いただきますので、教員の皆様だけでなく、生徒学生の皆様のご参加もお待ちしております。お申込み方法などの詳細は、後日 [ユネスコスクール公式ウェブサイト](#)内「イベントのお知らせ」「みんなの掲示板」、[ユネスコスクール公式 Facebook](#) にも掲載しますので、お見逃しなく！